



平成28年 8 月 5 日

各 位

会 社 名 アニコム ホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 小 森 伸 昭  
(コード番号：8715 東証一部)  
問合せ先 経営企画部長 木 村 幸 夫  
(TEL. 03-5348-3911)

(訂正) 「2017年 3 月期 第 1 四半期 決算補足説明資料」の一部訂正について

平成28年 8 月 5 日に公表しました「2017年 3 月期 第 1 四半期 決算補足説明資料」の記載内容の一部に誤り（前年同期比をYoYと記載すべきところ、QoQと表示）がありましたので、下記のとおり訂正し、訂正後のスライドを添付いたします。

なお、訂正箇所は灰色の囲みを付して表示しております。

記

【訂正箇所 1】 4 ページ「I. 2017年3月期 1Q 決算概要 1. 2017年3月期 1Q 決算ハイライト」  
(訂正前)

I. 2017年3月期 1Q 決算概要		
1. 2017年 3 月期 1Q 決算ハイライト		
業績	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経常収益 : 7,043 百万円 (前年同期は 6,404 百万円。10.0 % 増) (うち、保険引受収益: 6,848 百万円 (前年同期比 12.5 % 増))</li> <li>■ 経常利益 : 358 百万円 (前年同期は 491 百万円。26.9 % 減)</li> <li>■ 四半期純利益 : 98 百万円 (前年同期は 349 百万円。72.0 % 減)</li> </ul> <p>・ 2014年 6 月に実施した保険料改定効果はほぼ一巡したが、<b>当 1 Q における新規契約獲得数が Q o Q で 11.6% 増加するとともに、継続契約獲得数の増加と加齢による保険料単価上昇も寄与し、保険引受収益は順調に増加。</b></p> <p>・ 損害率の改善が進む一方、前 3 Q の本社移転や予防に向けた投資により事業費率が上昇していることから経常利益は Q o Q で減益だが、<b>2016年 5 月 9 日開示の 1 Q 経常利益見込み (304 百万円) と比較し、若干上ブレて着地。</b></p> <p>・ 2015年 12 月から 1 年間のイベントとして実施を予定していたアニコパーク西新宿の早期開園を決定したことから、<b>当期 3 Q 以降に計上予定であった減損損失を当 1 Q に計上</b>したため、1 Q の純利益が減少。ただし、<b>通期予算では織り込み済み。</b></p>	
損害率 (E/I)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 59.4 % (前年同期は 62.1 %。2.7pt 改善)</li> </ul> <p>・ 2014年 6 月の保険料改定をはじめとする<b>損害率改善諸施策の効果発現が継続</b>していることにより、<b>改善が着実に進捗。</b></p>	
事業費率 (既経過保険料ベース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 32.8 % (前年同期は 28.4%。4.4pt 上昇)</li> </ul> <p>・ 本社を前 3 Q に移転したため、家賃や減価償却費等の本社関連費用が Q o Q で増加。また、将来の売上向上および損害率改善に向け、予防に関する研究開発投資 (設備および専門人材) や営業人材強化等を積極的に行っており、人件費および物件費が増加。</p> <p>・ 新生児 (NB) 契約の獲得が順調に進んでおり、代理店に対する支払手数料が増加。</p>	

※ 損害率と事業費率はいずれもアニコム損保単体

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

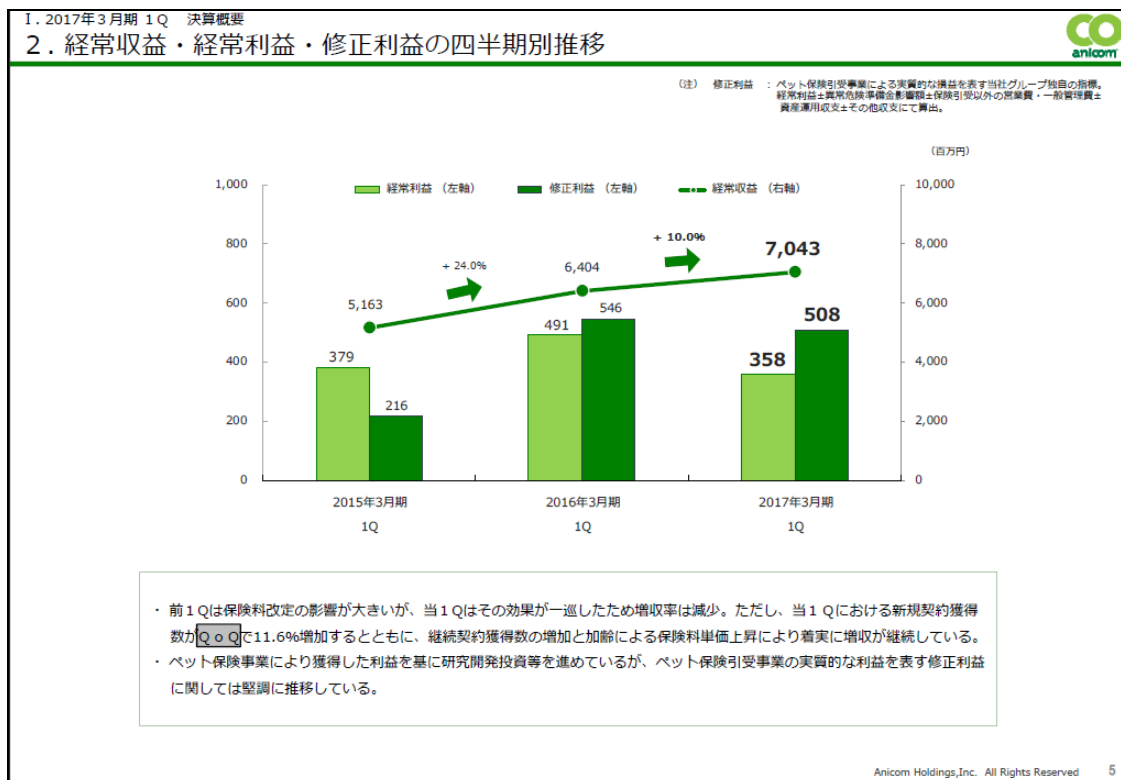
4

(訂正後)

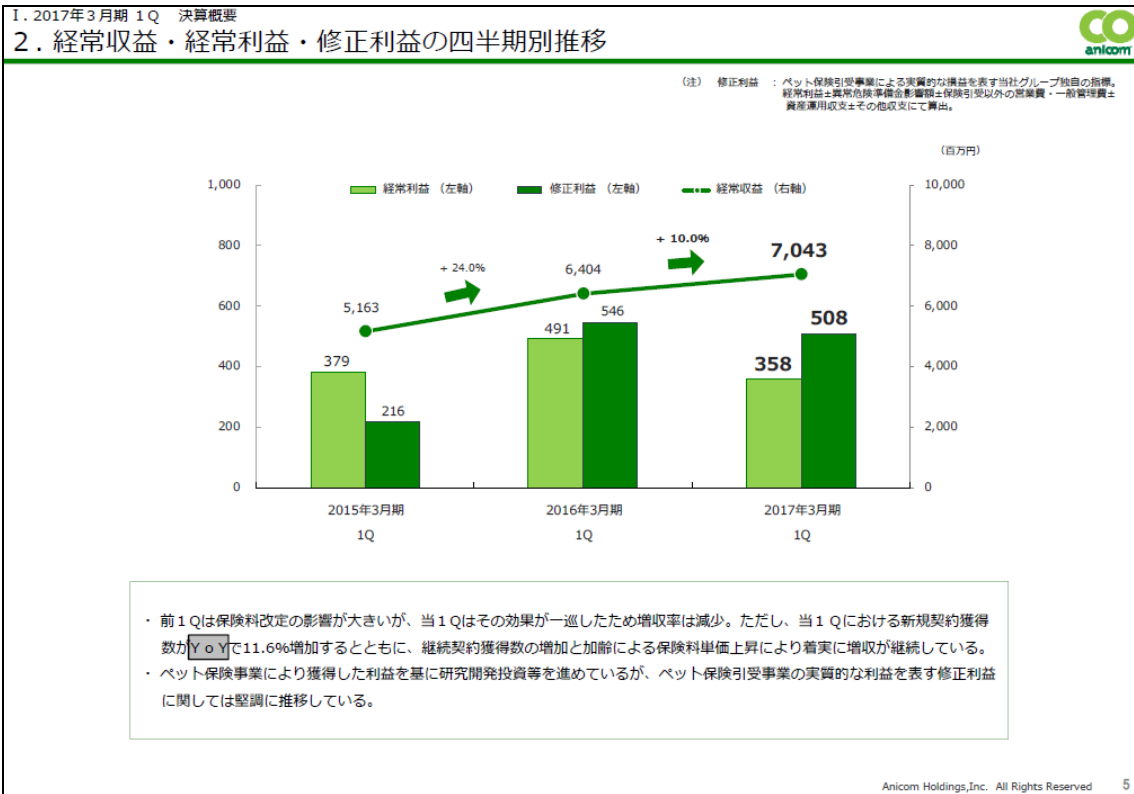
I. 2017年3月期 1Q 決算概要		anicom
1. 2017年3月期 1Q 決算ハイライト		
業績	<p>■ 経常収益 : 7,043 百万円 (前年同期は 6,404 百万円、<b>10.0 % 増</b>) (うち、保険引受収益: 6,848 百万円 (前年同期比 12.5 % 増))</p> <p>■ 経常利益 : 358 百万円 (前年同期は 491 百万円、<b>26.9 % 減</b>)</p> <p>■ 四半期純利益 : 98 百万円 (前年同期は 349 百万円、<b>72.0 % 減</b>)</p> <p>・2014年6月に実施した保険料改定効果はほぼ一巡したが、<b>当1Qにおける新規契約獲得数がY○Yで11.6%増加するとともに、継続契約獲得数の増加と加齢による保険料単価上昇</b>も寄与し、保険引受収益は順調に増加。</p> <p>・損害率の改善が進む一方、前3Qの本社移転や予防に向けた投資により事業費率が上昇していることから経常利益はY○Yで減益だが、<b>2016年5月9日開示の1Q経常利益見込み(304百万円)と比較し、若干上布して着地。</b></p> <p>・2015年12月から1年間のイベントとして実施を予定していたアニコパーク西新宿の早期閉園を決定したことから、<b>当期3Q以降に計上予定であった減損損失を当1Qに計上したため、1Qの純利益が減少。</b>ただし、<b>通期予算では織り込み済み。</b></p>	
損害率 (E/I)	<p>■ 59.4 % (前年同期は 62.1 %、<b>2.7pt 改善</b>)</p> <p>・2014年6月の保険料改定をはじめとする<b>損害率改善諸施策の効果発現が継続</b>していることにより、<b>改善が着実に進捗。</b></p>	
事業費率 (既経過保険料ベース)	<p>■ 32.8 % (前年同期は 28.4%、<b>4.4pt 上昇</b>)</p> <p>・本社を前3Qに移転したため、家賃や減価償却費等の本社関連費用がY○Yで増加。また、将来の売上向上および損害率改善に向け、予防に関する研究開発投資(設備および専門人材)や営業人材強化等を積極的に行っており、人件費および物件費が増加。</p> <p>・新生児(NB)契約の獲得が順調に進んでおり、代理店に対する支払手数料が増加。</p>	
※ 損害率と事業費率はいずれもアニコム損保関係		Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved 4

【訂正箇所2】 5 ページ「I. 2017年3月期 1Q 決算概要 2. 経常収益・経常利益・修正利益の四半期別推移」

(訂正前)



(訂正後)



【訂正箇所3】 6ページ「I. 2017年3月期 1Q 決算概要 3. 2017年3月期 1Q 連結決算概況」

(訂正前)

I. 2017年3月期 1Q 決算概要  
3. 2017年3月期 1Q 連結決算概況

	16年3月期 1Q	17年3月期 1Q	対前期 増減率
<b>経常収益</b>	<b>6,404</b>	<b>7,043</b>	<b>10.0 %</b>
保険引受収益	6,086	6,848	12.5 %
資産運用収益	188	90	△ 51.8 %
その他経常収益	129	104	△ 19.6 %
<b>経常費用</b>	<b>5,913</b>	<b>6,684</b>	<b>13.0 %</b>
保険引受費用	4,465	4,739	6.1 %
(正味支払保険金)	(3,073)	(3,575)	16.3 %
(損害調査費)	(212)	(249)	17.2 %
(諸手数料及び集金費)	(368)	(462)	25.3 %
(支払備金繰入額)	(273)	(68)	△ 75.1 %
(責任準備金繰入額)	(535)	(383)	△ 28.4 %
(うち未経過保険料)	(352)	(294)	△ 16.4 %
(うち異常危険準備金)	(183)	(88)	△ 51.5 %
資産運用費用	-	-	- %
営業費及び一般管理費	1,423	1,902	33.7 %
その他経常費用	25	42	67.8 %
<b>経常利益</b>	<b>491</b>	<b>358</b>	<b>△ 26.9 %</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>349</b>	<b>98</b>	<b>△ 72.0 %</b>
既経過保険料	5,733	6,553	14.3 %
発生保険金 (損害調査費含む)	3,560	3,893	9.4 %
E/I 損害率 ①	62.1 %	59.4 %	△ 2.7 pt
既経過保険料 <sup>①</sup> ×事業費率 ②	28.4 %	32.8 %	4.4 pt
D/R <sup>①</sup> ×E/I <sup>②</sup> (既経過保険料 <sup>①</sup> × <sup>②</sup> ) ①+②	90.5 %	92.2 %	1.7 pt

主な勘定科目の内容と増減理由

- ① 保険引受収益** (詳細は「4. 経常収益の「ラメータ」参照)
  - 保有契約が前年同期比7.6%増加。当四半期での新規契約がQoQで11.6%増加。
  - 2014年6月の保険料改定効果はほぼ一巡。
  - 継続契約数の増加と加齢に伴う保険料単価の上昇も一部寄与。
- ② 資産運用収益**
  - 主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。
- ③ 正味支払保険金**
  - 保有契約数の増加に伴い保険金支払も増加。
- ④ 損害調査費**
  - 人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。
- ⑤ 諸手数料及び集金費**
  - 主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に伴って増加。
- ⑥ 支払備金繰入額**
  - 将来の保険金支払に備えるための繰入額。
  - 支払備金 (B/S) 期末残高-期首残高で算出。
  - ③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。
- ⑦ 未経過保険料繰入額**
  - 収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
  - 繰入額は期末残高-期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
  - ①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料 (=発生ベースの保険料) となる。
- ⑧ 異常危険準備金**
  - 制度化した積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
  - 一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はその残高額が計上される。
  - 過期では、おおよそ「増収分×3.2%」が繰入額として計上される。

Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved 6

(訂正後)

I. 2017年3月期 1Q 決算概要  
3. 2017年3月期 1Q 連結決算概況

(百万円)

	16年3月期 1Q	17年3月期 1Q	対前期 増減率
<b>経常収益</b>	<b>6,404</b>	<b>7,043</b>	<b>10.0 %</b>
保険引受収益	6,086	6,848	12.5 %
資産運用収益	188	90	△ 51.8 %
その他経常収益	129	104	△ 19.6 %
<b>経常費用</b>	<b>5,913</b>	<b>6,684</b>	<b>13.0 %</b>
保険引受費用	4,465	4,739	6.1 %
(正味支払保険金)	(3,073)	(3,575)	16.3 %
(損害調査費)	(212)	(249)	17.2 %
(諸手数料及び集金費)	(368)	(462)	25.3 %
(支払備金繰入額)	(273)	(68)	△ 75.1 %
(責任準備金繰入額)	(535)	(383)	△ 28.4 %
(うち未経過保険料)	(352)	(294)	△ 16.4 %
(うち異常危険準備金)	(183)	(88)	△ 51.5 %
資産運用費用	-	-	- %
営業費及び一般管理費	1,423	1,902	33.7 %
その他経常費用	25	42	67.8 %
<b>経常利益</b>	<b>491</b>	<b>358</b>	<b>△ 26.9 %</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>349</b>	<b>98</b>	<b>△ 72.0 %</b>
既経過保険料	5,733	6,553	14.3 %
発生保険金 (損害調査費含む)	3,560	3,893	9.4 %
E/I 損害率 ①	62.1 %	59.4 %	△ 2.7 pt
既経過保険料ベース事業費率 ②	28.4 %	32.8 %	4.4 pt
①+②	90.5 %	92.2 %	1.7 pt

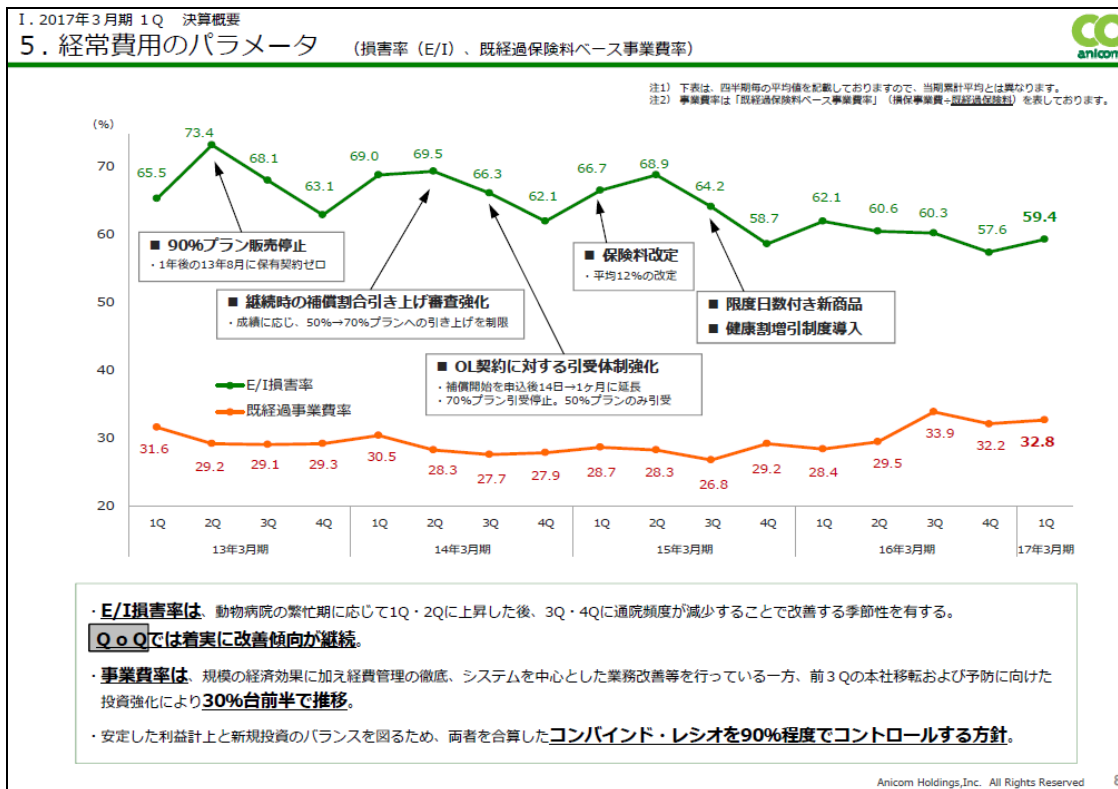
主な勘定科目の内容と増減理由

- ① 保険引受収益** (詳細は「4. 経常収益のパラメータ」参照)
  - ・保有契約が前年同期比7.6%増加。当四半期での新規契約が70で11.6%増加。
  - ・2014年6月の保険料改定効果はほぼ一巡。
  - ・継続契約数の増加と加齢に伴う保険料準備の上昇も一部寄与。
- ② 資産運用収益**
  - ・主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。
- ③ 正味支払保険金**
  - ・保有契約数の増加に伴い保険金支払も増加。
- ④ 損害調査費**
  - ・人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。
- ⑤ 諸手数料及び集金費**
  - ・主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に伴って増加。
- ⑥ 支払備金繰入額**
  - ・将来の保険金支払に備えるための繰入額。
  - ・支払備金 (B/S) 期末残高-期首残高で算出。
  - ・③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。
- ⑦ 未経過保険料繰入額**
  - ・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
  - ・繰入額は期末残高-期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
  - ・①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料 (=発生ベースの保険料) となる。
- ⑧ 異常危険準備金**
  - ・制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
  - ・一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。
  - ・過期では、おおよそ「増収分×3.2%」が繰入額として計上される。

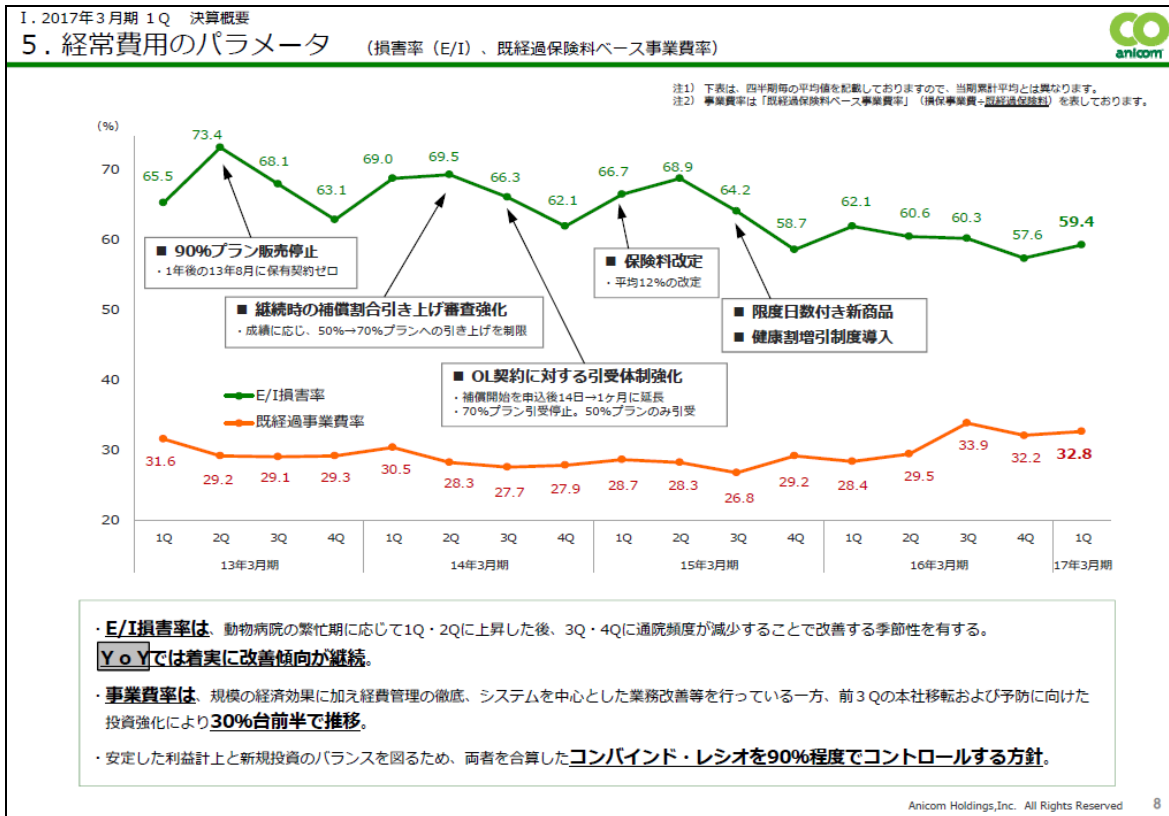
Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved 6

【訂正箇所4】 8ページ「I. 2017年3月期 1Q 決算概要 5. 経常費用のパラメータ」

(訂正前)



(訂正後)



以上

※ 以下、訂正後の「2017年3月期 第1四半期 決算補足説明資料」を添付いたします。



2017年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2016年8月5日

アニコム ホールディングス株式会社

(証券コード：8715)

会社名	アニコム ホールディングス株式会社 (Anicom Holdings,Inc.)
事業内容	損害保険業 (ペット保険)、動物病院支援事業 等
所在地	東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39 F
設立年月日	2000年7月5日
代表者	代表取締役 小森 伸昭
資本金	43億9千万円 (2016年6月末日 現在)
連結従業員数	644名 (うち、獣医師 104名。いずれも2016年6月末日 現在。契約社員含む)
グループ子会社	アニコム損害保険 (株)、アニコム パフェ (株)、アニコム フロンティア (株)、 アニコム先進医療研究所 (株)、アニコム キャピタル (株)

## I. 2017年3月期 1Q 決算概要

---



## 1. 2017年3月期 1Q 決算ハイライト

## 業績

- 経常収益 : 7,043 百万円 (前年同期は 6,404 百万円。 **10.0 % 増**)  
(うち、保険引受収益 : 6,848 百万円 (前年同期比 12.5 % 増))
- 経常利益 : 358 百万円 (前年同期は 491 百万円。 **26.9 % 減**)
- 四半期純利益 : 98 百万円 (前年同期は 349 百万円。 **72.0 % 減**)

- ・ 2014年6月に実施した保険料改定効果はほぼ一巡したが、**当1Qにおける新規契約獲得数がY o Yで11.6%増加するとともに、継続契約獲得数の増加と加齢による保険料単価上昇**も寄与し、保険引受収益は順調に増加。
- ・ 損害率の改善が進む一方、前3Qの本社移転や予防に向けた投資により事業費率が上昇していることから経常利益はY o Yで減益だが、**2016年5月9日開示の1Q経常利益見込み(304百万円)と比較し、若干上ブレて着地。**
- ・ 2015年12月から1年間のイベントとして実施を予定していたアニコパーク西新宿の早期閉園を決定したことから、**当期3Q以降に計上予定であった減損損失を当1Qに計上**したため、1Qの純利益が減少。ただし、**通期予算では織り込み済み。**

損害率  
(E/I)

- 59.4 % (前年同期は 62.1 %。 **2.7pt 改善**)

- ・ 2014年6月の保険料改定をはじめとする**損害率改善諸施策の効果発現が継続**していることにより、**改善が着実に進捗。**

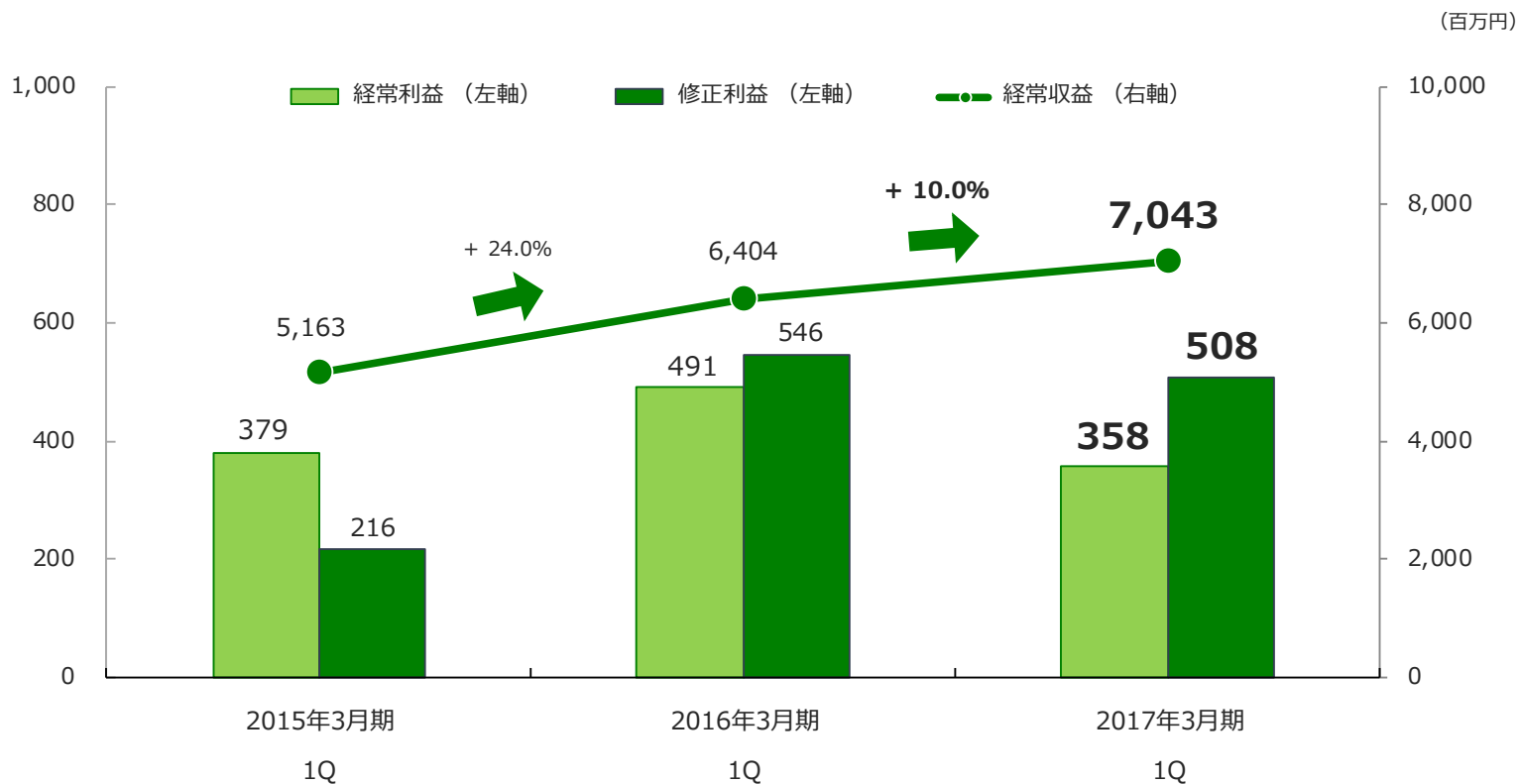
事業費率  
(既経過保険料ベース)

- 32.8 % (前年同期は 28.4%。 **4.4pt 上昇**)

- ・ 本社を前3Qに移転したため、家賃や減価償却費等の本社関連費用がY o Yで増加。また、将来の売上向上および損害率改善に向け、予防に関する研究開発投資(設備および専門人材)や営業人材強化等を積極的に行っており、人件費および物件費が増加。
- ・ 新生児(NB)契約の獲得が順調に進んでおり、代理店に対する支払手数料が増加。

## 2. 経常収益・経常利益・修正利益の四半期別推移

(注) 修正利益 : ペット保険引受事業による実質的な損益を表す当社グループ独自の指標。  
 経常利益±異常危険準備金影響額±保険引受以外の営業費・一般管理費±  
 資産運用収支±その他収支にて算出。



- ・ 前1Qは保険料改定の影響が大きいですが、当1Qはその効果が一巡したため増収率は減少。ただし、当1Qにおける新規契約獲得数がY〇Yで11.6%増加するとともに、継続契約獲得数の増加と加齢による保険料単価上昇により着実に増収が継続している。
- ・ ペット保険事業により獲得した利益を基に研究開発投資等を進めているが、ペット保険引受事業の実質的な利益を表す修正利益に関しては堅調に推移している。

## 3. 2017年3月期 1Q 連結決算概況

(百万円)

## 主な勘定科目の内容と増減理由

	16年3月期 1Q	17年3月期 1Q	対前期 増減率
<b>経常収益</b>	<b>6,404</b>	<b>7,043</b>	<b>10.0 %</b>
保険引受収益	6,086	<b>6,848</b>	12.5 %
資産運用収益	188	<b>90</b>	△ 51.8 %
その他経常収益	129	<b>104</b>	△ 19.6 %
<b>経常費用</b>	<b>5,913</b>	<b>6,684</b>	<b>13.0 %</b>
保険引受費用	4,465	<b>4,739</b>	6.1 %
(正味支払保険金)	(3,073)	<b>(3,575)</b>	16.3 %
(損害調査費)	(212)	<b>(249)</b>	17.2 %
(諸手数料及び集金費)	(368)	<b>(462)</b>	25.3 %
(支払備金繰入額)	(273)	<b>(68)</b>	△ 75.1 %
(責任準備金繰入額)	(535)	<b>(383)</b>	△ 28.4 %
(うち未経過保険料)	(352)	<b>(294)</b>	△ 16.4 %
(うち異常危険準備金)	(183)	<b>(88)</b>	△ 51.5 %
資産運用費用	-	-	- %
営業費及び一般管理費	1,423	<b>1,902</b>	33.7 %
その他経常費用	25	<b>42</b>	67.8 %
<b>経常利益</b>	<b>491</b>	<b>358</b>	△ 26.9 %
<b>四半期純利益</b>	<b>349</b>	<b>98</b>	△ 72.0 %

## ① 保険引受収益 (詳細は「4.経常収益のパラメータ」参照)

- ・保有契約が前年同期比7.6%増加。当四半期での新規契約がY o Yで11.6%増加。
- ・2014年6月の保険料改定効果はほぼ一巡。
- ・継続契約数の増加と加齢に伴う保険料単価の上昇も一部寄与。

## ② 資産運用収益

- ・主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。

## ③ 正味支払保険金

- ・保有契約数の増加に伴い保険金支払も増加。

## ④ 損害調査費

- ・人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。

## ⑤ 諸手数料及び集金費

- ・主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に伴って増加。

## ⑥ 支払備金繰入額

- ・将来の保険金支払に備えるための繰入額。
- ・支払備金 (B/S) 期末残高 - 期首残高で算出。
- ・③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。

## ⑦ 未経過保険料繰入額

- ・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
- ・繰入額は期末残高 - 期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
- ・①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料 (=発生ベースの保険料) となる。

## ⑧ 異常危険準備金

- ・制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
- ・一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。
- ・通期では、おおよそ「増収分×3.2%」が繰入額として計上される。

既経過保険料	5,733	<b>6,553</b>	14.3 %
発生保険金 (損害調査費含む)	3,560	<b>3,893</b>	9.4 %
E/I 損害率 ①	62.1 %	<b>59.4 %</b>	△ 2.7 pt
既経過保険料 <sup>h</sup> -s事業費率 ②	28.4 %	<b>32.8 %</b>	4.4 pt
ｺﾝﾊﾞｲﾝﾄﾞ・ﾚｲﾝ(既経過保険料 <sup>h</sup> -s) ①+②	90.5 %	<b>92.2 %</b>	1.7 pt

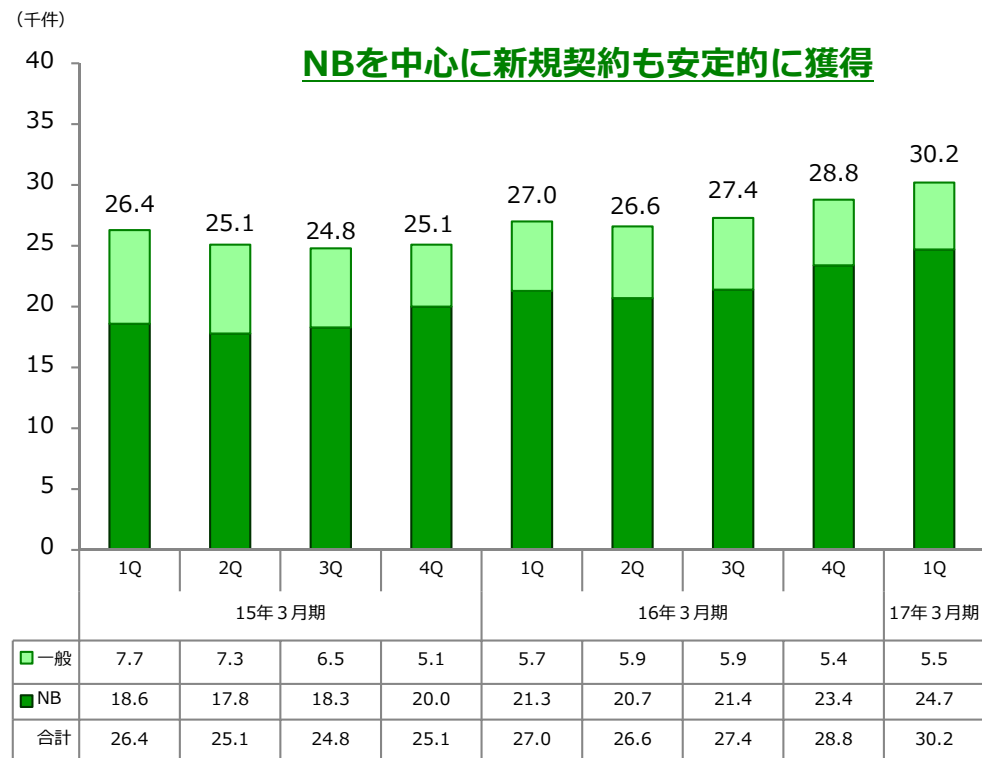
## 4. 経常収益のパラメータ

(ペット保険保有契約件数／新規獲得件数の推移)

## ■ 保有契約件数の四半期推移



## ■ 新規契約獲得件数の四半期推移

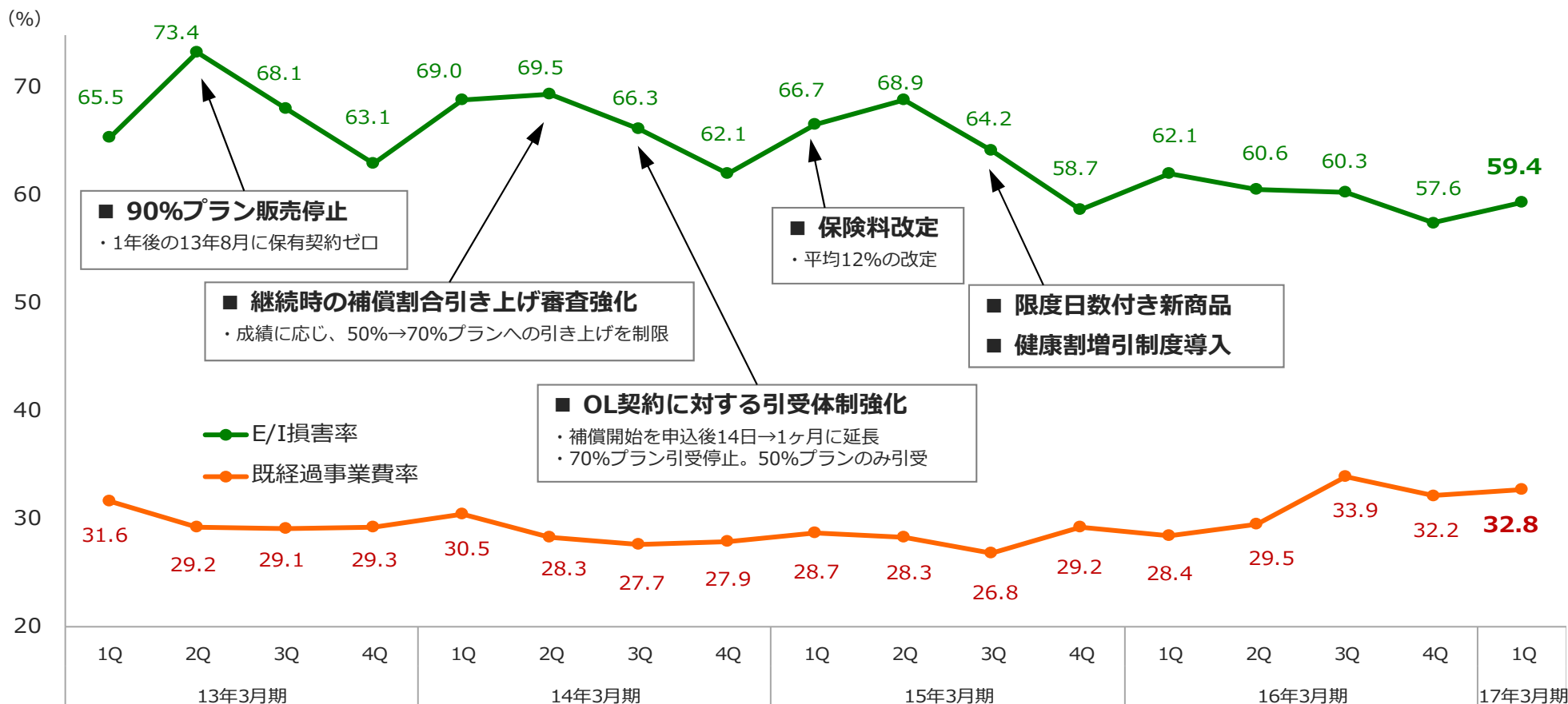


※ NB：新生児契約（ペットショップチャネル）

- ・ **新規契約獲得は順調に推移**。特にペットショップチャネル経由の新規契約獲得数は、当初計画を7%程度上回っている。
- ・ **既存契約の継続率は88%前後で推移しており、順調な獲得が継続**。
- ・ 以上の結果、**保有契約数は順調に増加**。当期末には63万件で着地見込み。
- ・ 50%プランと70%プランの比率は、保有契約全体ではおおよそ60：40で50%プラン割合が多い。一方、新規契約では70%プランが5割超。

## 5. 経常費用のパラメータ (損害率 (E/I)、既経過保険料ベース事業費率)

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。  
 注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



・ **E/I損害率は**、動物病院の繁忙期に応じて1Q・2Qに上昇した後、3Q・4Qに通院頻度が減少することで改善する季節性を有する。

**Y o Yでは着実に改善傾向が継続。**

・ **事業費率は**、規模の経済効果に加え経費管理の徹底、システムを中心とした業務改善等を行っている一方、前3Qの本社移転および予防に向けた投資強化により**30%台前半で推移**。

・ 安定した利益計上と新規投資のバランスを図るため、両者を合算した**コンバインド・レシオを90%程度でコントロールする方針**。

## 6. 連結貸借対照表 サマリー

(百万円)

## 主な勘定科目の内容と増減理由

	16年3月期	17年3月期 1Q	増減率
<b>資産合計</b>	<b>25,192</b>	<b>25,589</b>	<b>1.6%</b>
現金及び預貯金	7,556	9,642	27.6%
有価証券	10,739	6,303	△41.3%
有形固定資産	1,527	1,476	△3.4%
無形固定資産	653	574	△12.0%
その他資産	4,297	7,149	66.3%
繰延税金資産	433	460	6.1%
貸倒引当金	△16	△17	-%
<b>負債合計</b>	<b>14,492</b>	<b>14,904</b>	<b>2.8%</b>
保険契約準備金	11,888	12,340	3.8%
うち支払備金	1,558	1,626	4.4%
うち責任準備金	10,330	10,713	3.7%
その他負債	2,414	2,434	0.8%
賞与引当金	157	95	△39.5%
価格変動準備金	32	34	7.3%
<b>純資産合計</b>	<b>10,699</b>	<b>10,684</b>	<b>△0.1%</b>
株主資本	10,762	10,764	0.0%
うち資本金	4,396	4,397	0.0%
うち資本剰余金	4,286	4,287	0.0%
うち利益剰余金	2,080	2,079	0.0%
うち自己株式	△0	△0	-%
評価・換算差額等	△123	△165	-%
新株予約権	60	85	41.0%
<b>負債・純資産合計</b>	<b>25,192</b>	<b>25,589</b>	<b>1.6%</b>

## ① 有価証券

- ・主に国内株式・国内REIT・CRF等にて運用。

## ② その他資産

- ・1Q末直前に売却した有価証券の未収金残高が多額に計上。

## ③ 支払備金

- ・将来の保険金支払に備えて計上される未払金。  
すでに請求を受けている①普通支払備金と、保険事故は発生しているものの未だ請求を受けていない②IBNR備金を計上。
- ・基本的に保有契約の増加に伴い保険金請求も増加するため増加傾向。

## ④ 責任準備金

- ・未経過保険料である①普通責任準備金(9,811百万円)と、異常災害に備えて引き当てる②異常危険準備金(901百万円)を計上。
- ・普通責任準備金は保有契約の増加に伴い増加する傾向であり、当該期における正味収入保険料のおおよそ35%~40%前後が残高として計上される傾向。

## 7. 連結キャッシュ・フロー サマリー

(百万円)

	16年3月期 1Q	17年3月期 1Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	415	<b>430</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	317	<b>1,441</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	41	△ <b>86</b>
現金及び現金同等物の増減額	775	<b>1,785</b>
現金及び現金同等物の期首残高	1,567	<b>6,106</b>
現金及び現金同等物の期末残高	2,342	<b>7,892</b>

- ・コンバインド・レシオの改善と保険契約の伸長が相俟って、安定した営業キャッシュ・フローを計上。
- ・運用資産への投資を進める一方で売却による回収も実行し、投資キャッシュ・フローをコントロール。
- ・財務キャッシュ・フローは期末配当金の支払い。

## 8. 予防への取り組み状況（一例）

アニコムグループでは、予防の実現に向けて現在さまざまな視点から多種多様な手法による取り組みを同時進行させており、一例として、以下のような取り組みを行っております（以下はその一部です）。

- ✓ アニコム先進医療研究所（株）による、どうぶつと飼い主の腸内細菌叢に関する研究・解析
- ✓ アニコム損害保険（株）による、保険金請求データの詳細解析
- ✓ アニコム ホールディングス（株）およびアニコム損害保険（株）による、家庭どうぶつに関する総合的調査

また、これら取り組みの成果としてその一部をHPに開示し、順次アップデートを続けるとともに、当社グループの収益拡大に向けた事業化に取り組んでまいります。

### ■ 当社HPに開示している事例 [\(http://www.anicom.co.jp/ir/prevention/\)](http://www.anicom.co.jp/ir/prevention/)

#### (1) 家庭どうぶつに関する総合的調査

### 家庭どうぶつに関する総合的調査

健康寿命延伸を目的に、アニコムペット保険契約者に対し大規模疫学調査を実施。  
生活環境と各種疾患の相関を明らかにすることで、より健康に暮らせるライフスタイルの確立を目指す。

## 環境

**飼い主属性**  
 家族構成、年齢構成、世帯年収、居住地域、飼育歴、居住区  
 睡眠時間、通勤時間、喫煙習慣、喫煙場所 etc  
**どうぶつ属性**  
 犬種、性別、年齢、不妊手術、出産経緯、体重、毛色 etc  
**居住環境**  
 住居タイプ、居住階数、居住年数、周辺環境（高圧線、田畑の有無等）、床や壁の素材、照明タイプ、騒音、清潔度 etc  
**飼育環境**  
 散歩時間、留守番時間、歯や耳のケア有無、投薬の経緯頻度  
 フード種類、頻度、時間等、飲水量 etc

×

## 疾患

**飼い主健康状態**  
 居住区、同居家族の疾患、BMI、主観的健康度、幸福度 etc  
**どうぶつ健康状態**  
 罹患疾患等（保険金請求データ）、ワクチン接種状況 etc

▶ 人と動物が、より健康に暮らせる  
ライフスタイルの確立

生活資料の研究開発等、新たなビジネスモデルの創出へ

【アンケート概要】 ■対象者：アニコムペット保険契約者 ■有効回答数：4,620名 ■実施期間：2016年2月15日～2016年2月23日

#### (2) 水素分子による血管内皮細胞機能の改善

### 水素分子に期待される末梢血管運動機能改善作用

Molecular hydrogen; a potential relaxing factor of peripheral blood vessels

石橋 徹<sup>1,2</sup>、松野 香須美<sup>1</sup>、石原 玄基<sup>1</sup>、河本 光祐<sup>1</sup>、小森 伸昭<sup>1</sup>

<sup>1</sup>アニコム先進医療研究所株式会社  
<sup>2</sup>ハウステンボスサテライトH2クリニック博多

Toru Ishibashi<sup>1,2</sup>, Kastumi Matsumo<sup>1</sup>, Genki Ishihara<sup>1</sup>, Kosuke Kawamoto<sup>1</sup>,  
and Nobuaki Komori<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>Anicom Specialty Medical Institute, Inc.  
<sup>2</sup>Huis Ten Bosch Satellite H2 Clinic Hakata



# APPENDIX

---

1. 主要経営パラメータ
2. グループの事業概要

# 1. 主要経営パラメータ (アニコム損保(株) 単体)

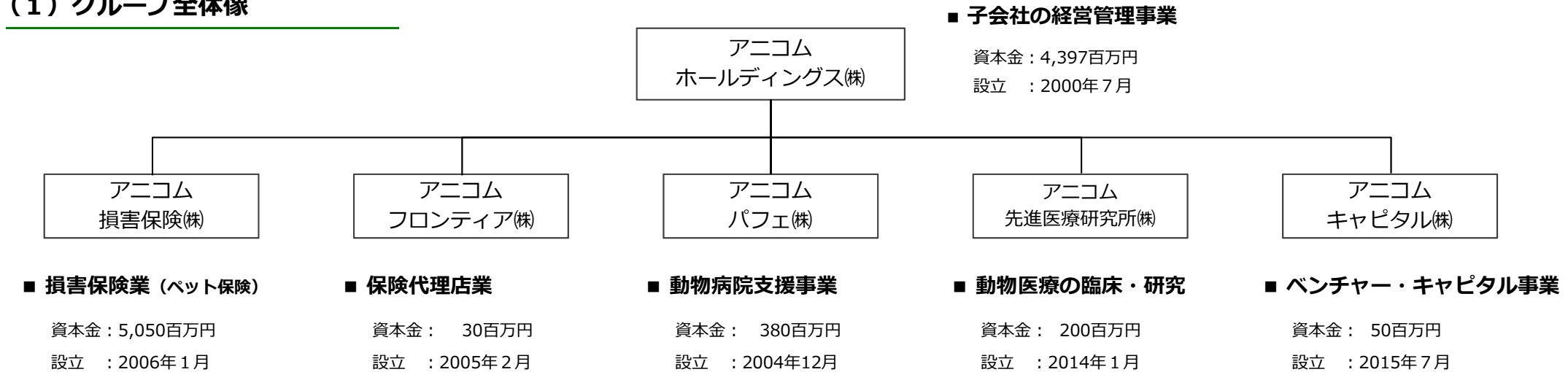
	① 16年3月期 1Q	② 16年3月期末	17年3月期 1Q	②-① 前年同期比		②-① 対前期末		17年3月期末 (5月9日予想)
				件数	率	件数	率	
① 保有契約数	554,837 件	585,962 件	597,243 件	42,406 件	7.6 %	11,281 件	1.9 %	630,000 件
② 新規契約数	27,055 件	110,093 件	30,181 件	3,126 件	11.6 %	-	-	118,000 件
(うち新生児)	(21,333 件)	(86,955 件)	(24,692 件)	(3,359 件)	15.7 %	-	-	(93,000 件)
(うち一般)	(5,722 件)	(23,138 件)	(5,489 件)	(△233 件)	△4.1 %	-	-	(25,000 件)
③ 継続率	88.5 %	88.2 %	87.9 %	△0.6 pt	-	-	-	88.1 %
④ 保険金支払件数	618 千件	2,681 千件	680 千件	61 千件	10.0 %	-	-	2,800 千件
⑤ 対応動物病院数	5,820 病院	5,969 病院	6,001 病院	181 病院	3.1 %	32 病院	0.5 %	6,200 病院

	16年3月期 1Q	17年3月期 1Q	対前年同期増減	17年3月期 (5月9日予想)
⑥ E/I 損害率	62.1 %	59.4 %	2.7 Pt 改善	58.1 %
⑦ 既経過保険料ベース事業費率	28.4 %	32.8 %	4.4 Pt 上昇	32.9 %
⑧ コンバインド・レシオ (既経過保険料ベース)	90.5 %	92.2 %	1.7 Pt 上昇	91.0 %

	16年3月期末	17年3月期 1Q	対前期末増減	17年3月期 (5月9日予想)
⑨ 単体ソルベンシー・マージン比率	282.6 %	281.6 %	△ 1.0 pt	280 %前後

## 2. グループの事業概要

### (1) グループ全体像



### (2) グループ沿革

2000年 4月	任意組合として anicom（どうぶつ健康促進クラブ）設立	2008年 1月	アニコム損保(株)がペット保険の販売を開始
2000年 7月	anicomから「どうぶつ健保」事務受託会社として(株)ビーエスピー設立 (2005年1月にアニコム インターナショナル(株)に、2008年6月に アニコム ホールディングス(株)に、それぞれ商号変更)	2008年 4月	アニコム損保(株)がペット保険の補償を開始
2004年12月	アニコム パフェ(株)設立	2009年11月	「家庭どうぶつ白書」発刊（以降、毎年発刊）
2005年 2月	アニコム フロンティア(株)設立	2010年 3月	アニコム ホールディングス(株)が東証マザーズ上場（証券コード：8715）
2006年 1月	保険会社設立準備のため、アニコムインシュランスプランニング(株)設立 (2007年12月にアニコム損害保険(株)に商号変更)	2014年 1月	日本どうぶつ先進医療研究所(株)（現「アニコム先進医療研究所(株)」）設立
2007年12月	アニコム損害保険(株)が損害保険業免許を取得 アニコム インターナショナル(株)が保険持株会社としての認可取得	2014年 6月	アニコム ホールディングス(株)が東証一部に市場変更
		2015年 7月	アニコム キャピタル(株)設立
		2016年 4月	当社49%、富士フイルム(株)51%出資の動物の再生医療に関する合併事業として、セルトラスト・アニマル・セラピューティクス(株)を設立

## 2. グループの事業概要

### (3) ペット保険商品の概要

#### ① 補償内容

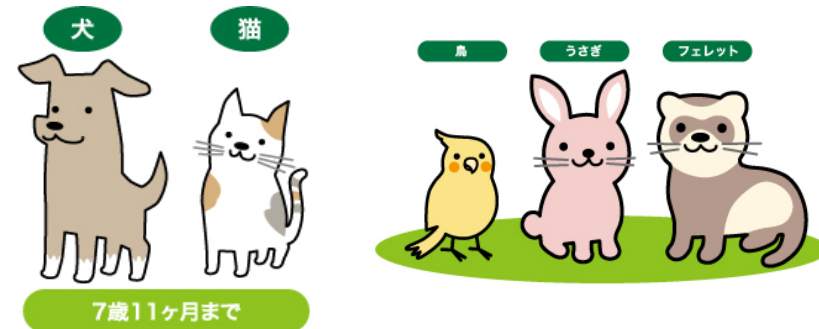
どうぶつのケガ・病気に対し、保険の対象となる診療費の70%もしくは50%を、支払限度額の範囲内で保険金としてお支払いします。

(死亡補償ではありません)

	ふあみりい70%プラン 支払割合 70% 支払限度額と限度日数(回数)	ふあみりい50%プラン 支払割合 50% 支払限度額と限度日数(回数)
通院 入院	1日あたり最高 <b>14,000円</b> まで ※1年間にご利用できる日数は <b>各20日まで</b> です。	1日あたり最高 <b>10,000円</b> まで ※1年間にご利用できる日数は <b>各20日まで</b> です。
手術	1回あたり最高 <b>140,000円</b> まで ※1年間にご利用できる回数は <b>2回まで</b> です。	1回あたり最高 <b>100,000円</b> まで ※1年間にご利用できる回数は <b>2回まで</b> です。

#### ② 対象となるどうぶつと年齢

- 新規にお申込みいただけるどうぶつは7歳11ヶ月までの健康体である犬・猫。
- ペットショップでお迎えになる場合は、犬・猫のほか、鳥・うさぎ・フェレットについてもお申し込み可能。



## 2. グループの事業概要

### (4) 特長と競争優位の源泉

#### ① 窓口精算システム

人間の健康保険と同様の窓口精算システムを採用し、契約者の利便性が高い仕組みを構築しております。

契約者の方には人間の健康保険証と同様の「どうぶつ健康保険証」を発行しております。この「どうぶつ健康保険証」をアニコム損保(株)と提携する動物病院の窓口で提示すればお支払いは自己負担額（保険金支払対象額の30% or 50%。ただし限度金額あり）のみとなり、その場で保険金の精算が完了します。



#### ② 圧倒的な提携動物病院の数

ペット保険を取り扱っている同業他社でも同様の仕組みを採用している会社もありますが、その提携動物病院の数には圧倒的な差があります。

アニコム損保(株)では全国で6,001の動物病院施設と提携（2016年6月末時点）しており、保険金請求の約85%が窓口精算による請求であります。



全国 **6,001** 動物病院と提携

(※ 2016年6月末時点)

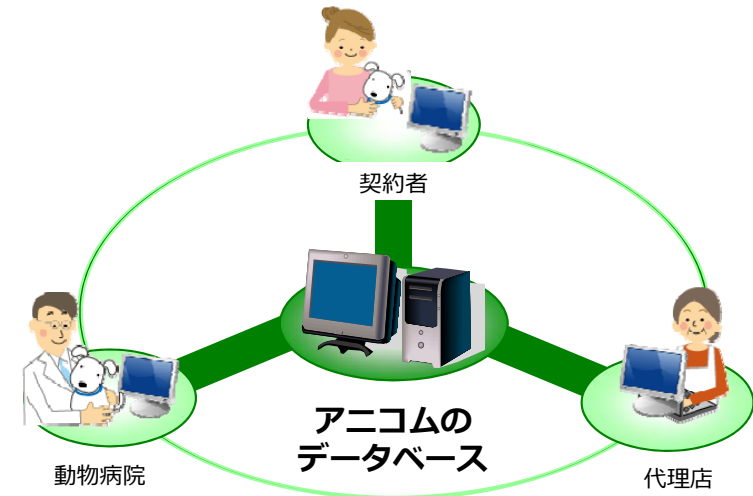
## 2. グループの事業概要

### (4) 特長と競争優位の源泉

#### ③ シームレスネットワーク

保険契約に関する情報を、契約者・動物病院・代理店・アニコム損保(株)の間で即座に繋げるネットワークを構築しております。

保険金請求データのみならず契約データ等もネットワークで共有することにより各当事者の利便性の向上を図るとともに大幅なコストダウンを達成。事実上の参入障壁のひとつとなっております。



#### ④ 多種多様なバックグラウンドを持つ社内獣医師人材

2016年6月30日現在、104名の獣医師がアニコムグループに所属しております。

それぞれの獣医師は、大学院で研究を続け博士号を取得している者から、臨床現場で1次診療や2次診療、救急診療を経験している者まで、そのバックグラウンドは多種多様であります。

これら獣医師は、獣医療に関する研究・分析のほかペット保険の引受審査や支払調査を担当する者、動物病院の獣医師や契約者と対話する者等、「獣医師だからこそ」の信頼性が必要となる様々な場面で活躍しております。

また、月次でグループの獣医師が集まり、勉強会等も開催しております。



本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー 39F

URL : <http://www.anicom.co.jp/>

